



さみしくないよ (愛知県 Tさん)

幼い頃、父の仕事の関係で、家族三人、大阪に住んでいました。おばあちゃんっ子の私なので、月に一度、祖母に会いに、名古屋に帰る鉄道の旅をととても楽しみにしていました。

景色を見たりおやつを食べたり、どんなことでも電車で過ごす時間は珍しく・楽しくて、「あっという間」に名古屋が近付き、ホームで待っていてくれる祖母の姿をみつけると嬉しくて、電車から降りるといつも飛びついていました。

しかし、数日後、当たり前ながら別れの時はやってきます……。ホームまで送ってくれている祖母と別れるのがさみしくてたまらず、同じ鉄道の旅なのに、帰りの電車の中は、私にとって行きとは別の空間でした。



今では一児の母となった私。足腰の弱くなった祖母と、当時の事をよく思い出して話しています。幼かった私は、帰りに送ってくれた祖母が、一人ホームに残された時の気持ちを想う余裕がなかったけれど、私と同じように相当さみしかったとの事。今では想像できます。

しかし、私が全く想像できなかった有難い事が……。祖母の顔を覚えてくれた駅員さんがいらっしゃり、いつも一言二言声をかけて下さっていたようなのです。

その優しさを「一生忘れられない」と話しながら涙ぐむ祖母の姿を目にし、温かい気持ちに満たされながら、私も感謝の気持ちでいっぱいです。

